

# 高尾山報

令和4年11月号



八王子商工会議所主催  
**第9回わくわくフェア 桑都パレード**

於・八王子市内西放射線ユーロード

# 法の水茎

大正大学講師 高橋 秀城

(125)

## 風吹けば

落つるもみぢ葉

水清み

散らぬ影さへ

底に見えつつ

（『古今集』凡河内躬恒）  
（風が吹くと落ちる紅葉の葉は、散り行く先の水が清く澄んでいるので、まだ散らずに枝に残っている紅葉の姿までが、水底にくつきりと映っているよ）

霜降月（十一月）を迎えて、すっかり秋も深まってきました。野山へと紅葉狩りに出かければ、朝夕の冷え込みに頬を赤らめている紅葉が、澄み切った水面に艶やかな姿を映しているでしょうか。やがて、強く冷たい木枯らしが通り過ぎれば、枝先の葉も地上へと離れ行くでしょう。「一葉落ちて天下の秋を知

る」という言い回しがあるように、ひらひらと舞い散る木の葉に秋の思いを乗せてみれば、今年の残り日がしみじみと感じられてくるようです。

今月の二十三日は「勤労感謝の日」の祝日です。「国民の祝日に関する法律」に「勤労をたつとび、生産を祝い、国民がたがい感謝しあう」と日と定められているように、あらためて日々の生活に有り難みを感じ、お互いに感謝の心を送り合います。

勤労感謝の日の起源は古く、もともとは天皇がその年に収穫した穀物を神に供え、自らも食すという「新嘗祭」に始まったものです。民間でも、収穫祭として五穀豊穡を祝い、大地に感謝する行事が全国で行われてきました。

神事としての意味合いを含む日ではありますが、徳島県の山間では、この十一月二十三日（霜月二十三夜）に「お大師さまのお衣替えの日」（「大師講」といって、小豆粥を仏壇に供え、家族も共に食する風習があるそうです。この日は諸国行脚から弘法大師空海（七四〇―八三五）が帰ってくる日と言われ、傷んだ裾を直したり風呂を沸かししたりして、お大師さまを接待するのだとか。弘法大師への恩徳を胸に抱きつつ生き抜いてきた人々の、篤い思いを感じます。

さて今回も、『今昔物語集』の空海伝を見ていきましょう。先月号では『大日経』というお経を学ぶために、はるばる唐（中国）へと渡り、いよいよ密教の大家であった恵果阿闍梨（七四六―八〇五）と対面したところまでを読み進めました。その後は次のように続きます。



勤労感謝の日には高尾山の紅葉も見頃を迎えます

恵果和尚は空海を見ると、笑みを含みながら喜んで、「私はそなたが来るはずだと前々から知っていたが、ずいぶん長く待っていたぞ。今日やっと会うことができている。これまでに本当に嬉しい。これまで私には法を授ける弟子がいなかったが、そなたに全てを伝えよう」と仰いました。すると、すぐに仏前に供える香と花を用意し、灌頂（法を受けるときの儀式）を行う壇に入りました。空海が堂内

## 三社寺合同

### 全国災害復興祈願祭

九月二十七日（火）

去る九月二十七日、大山阿夫利神社と北口本宮富士浅間神社、高尾山薬王院の三社寺は、大山阿夫利神社下社にて、関係者約二十人が参列のもと三社寺合同全国災害復興祈願祭を行いました。

この法要は、東日本大震災の慰霊祭を合同で行ったことを契機として、今では様々な災害からの復興を祈るため、一年毎に三社寺の輪番で行われています。祈願祭では、大山阿夫利神社の目黒宮司齋主のもと、参列の皆で祝詞の大祓詞を奏上し、僧侶・神職による神仏習合の祈りの中、国土安穩、疫病退散、世界平和を静かに祈る一時となりました。



大山阿夫利神社、高尾山薬王院、北口本宮富士浅間神社合同 全国災害復興祈願祭

なかに法を授け終わった。早く故郷の日本に帰り、国家に献じて天下に広め、人々の福を増すようにするのだぞ」と教え諭したのでした。

（『今昔物語集』など）  
恵果和尚は、空海との出会いを待ち望んでいたようです。恵果和尚の言葉に、

貧を濟ふに  
財を以てし、  
愚を導くに  
法を以てす。  
財を積まざるを  
以て心とし、  
法を擧げざるを  
以て性とす。

（空海『性霊集』）  
（貧民を救うには財物を用い、愚民を導くには仏法を用いる。財物を蓄積しないように注意し、仏法を惜しまずに広めるよう心がける）  
という名言があります。微笑みを湛えながら空海を出迎え、積み上げてきた法を出し惜しみすることなく伝授した姿に、恵果和尚の厳しくも温

## 飾を落して道に入る。

（空海『性霊集』）

（親元を離れて仏道の師に就き、髪をそり落として仏道に入る）

恵果和尚も空海も、ひたむきに真言密教を追い求めました。眼の前で目を輝かせている空海の姿に、恵果和尚も若き日の自身を重ね合わせたでしょう。空海の全てが「掌中の珠」（最愛の子）のように映っていたのかもしれない。

（栃木北部教区普濟寺）

## 最後の献血

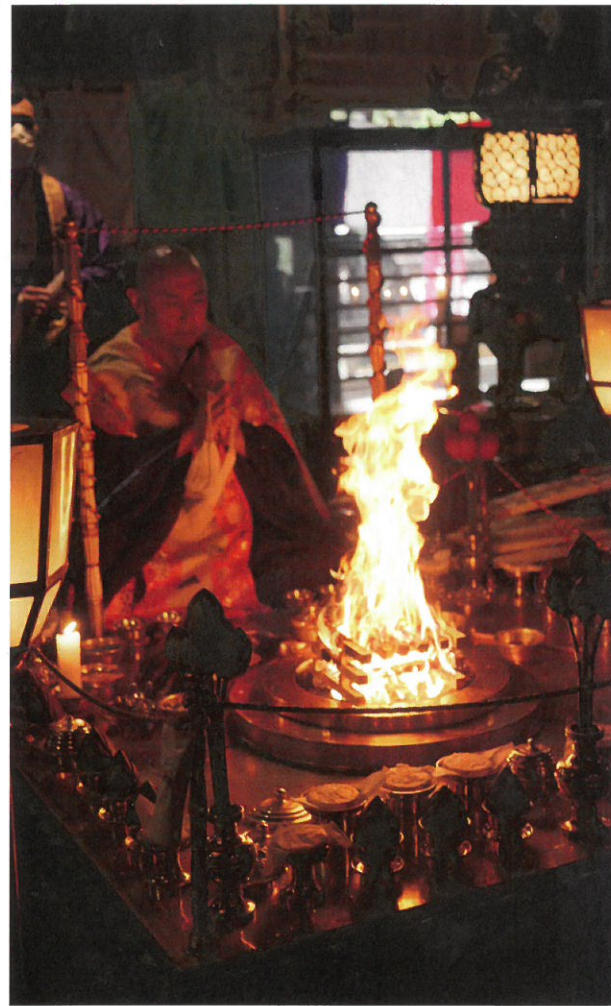
### 青年団体引誘我

### 十有八回想感情

### 不可捐款可献血

### 入院手術没愁情

厚木市 荒井 一雄  
誕生日  
前日にせる献血は  
此の身最後の奉仕に  
最後の献血  
三十二歳にして青年団体に  
我は献血を勧誘さるる…  
それ以来三十八年間に  
十八回の献血…  
貧しき故、献金は出来ずとも  
献血なら何時でもOK…  
何時入院・手術と成るも  
何ら憂ふに及ばず…



熱禱する佐藤貫首



有喜苑における柴燈大護摩供厳修



大本堂における御詠歌奉唱



侍装束に身を固めた高尾山慶賛会の皆様



舞扇供養を行う八王子芸妓衆

子供達の健やかな成長を祈って

十月十七日(月)

# 高尾山秋季大祭厳修



練行の行列は長く続く



健康に過ごせますようにお加持を授かる



横川幼稚園の園児による鼓笛隊に続き稚児たちが練り歩く



# 観音菩薩の宗教

59

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

## 観音菩薩の転生者としての聖徳太子と空海(5) (その22)

聖徳太子の実像と神話、もしくは実在説と非実在説が多方面から議論されていることは、かつて通俗的なメディアをも巻き込んで多くの関心を惹起した。ことに大山誠一『聖徳太子の誕生』(吉川弘文館、一九九九年)は、従来の教科書的記述をも真つ向から否定して太子実在を否定したため、激しい賛否の議論を巻き起こした(拙稿「観音菩薩の宗教」)。筆者は大山説に代表される見解に与するものではないが、仮に歴史的人物としての聖徳太子が実在しなかったとしても、聖徳太子の思想史上の重要性は否定しようがない。ことに後の日本仏教の祖師た

ちが聖徳太子を本地とする信仰は、日本仏教の濫觴が聖徳太子にあることを伝えている。これまで見てきたように弘法大師もその一人である。聖徳太子は実証史上の当否にかかわらず、思想史・信仰史上、現代に至るまで脈々と相続されてきた。のみならず聖徳太子の本地は観音菩薩とされるから、叙上の重要性は同時に観音菩薩の重要性に置き換えることもできる。

前号では弘法大師と聖徳太子の関係を見たが、要約すれば以下のようになる。

観音菩薩の垂迹である聖徳太子の声によって、弘法大師は第三地の菩薩たる高貴徳王菩薩を

感得した。高貴徳王菩薩はまた、日本に垂迹して住吉明神となった。

これらのことに続き、『高野大師行状圖書』第十「住吉同體事」では、弘法大師は「第三地の菩薩。高貴徳王菩薩となり。我朝に誕生し」とある。このことは弘法大師の本地が高貴徳王菩薩であることを示すものである。さらに「住吉同體事」は「住吉明神の御本地は高貴徳王菩薩なり」とも述べているから、高貴徳王菩薩は弘法大師と住吉明神の本地であることになる。また、弘法大師は聖徳太子とも感応しているから、聖徳太子の垂迹が弘法大師と捉えることもできる。この入り組んだ関係について中川善教は「三者の地位の矛盾」とし、それを解かんとする会釈を康應二年(一三九〇)の奥書ある『高野物語』から引用している。先ずは同書が矛盾を提示する一節を見よう。原文に続いて拙訳を掲げる。

「大師ハ何ノ菩薩ノ垂迹ト申事ハ測カタク侍ヘシ聖徳太子ノ後身ニテヲワシマスト云一説モ侍リ又高貴徳王菩薩ニテヲワシマスナト申セトモ一定ノ事ハ測カタク侍リ」

(弘法)大師がいずれの菩薩の垂迹かということは、推し量ることが難しい。聖徳太子の後身でいらつしやるという一説もあり、また住吉明神の本地である高貴徳王菩薩でいらつしやるなどと言うけれども、確かなことは推し量るのが難しい」

このように前置きしたうえで、「大師惠果和尚ト代ノ師資ト成テ密教ヲ弘メント仰ラレタレハ則龍猛菩薩ノ垂



航海安全の住吉三神を祀る摂津(大阪)の住吉大社

跡コソヲハシマスラメ」と書き加える。これを訳すれば、「(弘法)大師は惠果和尚(阿闍梨)と代々の関係になつて密教を弘めようとおつしやつたので、そのことはすなわち(おふたりはともに)龍猛菩薩の垂迹でこそいらつしやるのであろう」ということである。さらに続いて同書は矛盾を次のように解釈、結論づける。原文と

拙訳を続けて示す。

「疑ナク大師ハ龍猛ノ後身ニヲハシマスヘシ然者外用ニ付テハ龍猛ハ初地ノ菩薩ニテヲハシマスカ大師ト顯テ第三地ヲ修シ給ヘルニコソ上宮太子ノ後身ト申説ニ依テ救世観音ノ化身ナラバ等覺一點ノ位コソハ登セ給ヒタルヲハ第三地ヲ證スト云御記ハ量カタク侍レトモ大権ノ垂跡應用難思ノ事ナラハ何モ相違ナキ事ニヤ侍ラム」

「疑いなく(弘法)大師は龍猛(菩薩)の(垂迹)の後身でいらつしやるのである。そうであるから(衆生済度のために)外に現れる(はたらきである)用(に)付いて見れば、龍猛(菩薩)は初地の菩薩でいらつしやり、それが(弘法)大師(の垂迹)として顕現して、第三地(の菩薩)の修行をなされたことになる。(一方で、弘法大師は聖徳太子である)上宮太子の生まれ変わりという説によれば、(弘法大師は)救世観音

の化身でもあるので、等覺ただ一つの位にだけお登りになったことを第三地を證したとする御記録は(矛盾するので)量りがたいことであるが、ブツダの垂迹が衆生を救うためにこの世に現れることは(凡夫が)考えてもわからないことであるから、何も矛盾することではないであろう」

以上によれば、弘法大師の淵源はブツダまで遡るから、ブツダの衆生済度のはたらきを考えれば多様な本地を持つても矛盾しないとする。この文に對し中川善教(前掲論文、三三九頁)は、「苦しく會論理的に考えれば確かに「苦しい会釈」であるが、信仰上は大師の本地が多様であることも、本地の垂迹が種々であることも異例ではない。すなわち弘法大師が高貴徳王菩薩や住吉三神の垂迹とすることにも疑念を抱かせない。宝曆二年の『野山名靈集』の「御請願の事」に

は弘法大師の本地として弥勒菩薩、金剛界大日如来、天照大神、住吉明神、金剛光菩薩の説が挙げられている(中川、前掲論文、三四五頁)。さらにこれらに聖徳太子とその本地である観音菩薩を加えることができる。

弘法大師は日本密教の大成者であるから、その本地が大乗仏教の諸尊であることは当然である。注目すべきは住吉明神である。日本の神仏習合における本地垂迹説は、古事記以来の日本の神々の本地を仏教の諸尊格に求めている。例えば、大日如来が垂迹して天照大神となつたり、阿弥陀如来が伊弉諾尊となつたとする説である。ところが、ここでは住吉明神が弘法大師の本地とする説を取っている。しかも複雑な経緯を経て、その先では観音菩薩に辿り着く。弘法大師の前身には、観音菩薩やインドの高僧、日本の聖徳太子や古来の神々が想定され、それは弘法大

師の総合的な思想を象徴するとともに、密教の日本土着化の経緯を反映している。なかでも住吉明神は海洋と関係が深く、弘法大師が渡海して留学した後、無事に日本に帰還して密教を齎したと関係があるのではないか。古代史家の倉西裕子の指摘によれば、『観音経』の所説などに基づき、観音菩薩は水難から衆生を護る尊格として信仰される。そのため船内に祀られるなど、渡海者の守護尊として尊崇された(『国宝・百済観音は誰なのか?』小学館、二〇〇六年)。このことから海と関係の深い住吉の神々と弘法大師とが結びつけられたとも推察できる。

事実、弘法大師が乗った延暦二十三年(八〇四年)の遣唐使船「よつこのふね(四隻の船)」は、摂津の住吉津に集まり住吉大社に祈願してから大陸に向けて難波津を出航している(住吉大社編『遣唐使・遣唐使と住吉津』東方出版、

二〇〇八年)。

住吉三神は『日本書紀』以下のようにある。引用は伊邪那岐神(書紀では伊弉諾尊)が死別した伊邪那美神(書紀では伊弉冉尊)を訪ね、帰還後、黄泉国の穢れを海水で雪ぐ場面である。ここでは最新の研究による現代語訳を掲げる。

(伊弉諾尊は死穢を雪ぐため)「海底に沈んで身をすすいだ。これによって神を生み、名づけて底津少童命という。次に底筒男命。また潮のなかに潜つて身をすすいだ。これによって神を生み、名づけて中津少童命という。次に中筒男命。また潮の上に浮いて身をすすいだ。これによって神を生み、名づけて表津少童命という。次に表筒男命。(中略)その底筒男命・中筒男命・表筒男命は、すなわち住吉大神である」(神野志隆・光・金沢英之・福田武史・三上喜孝校注『新釈全訳日本書紀』講談社、二〇二一年、一一〇～一一二頁)



高尾山内各所に祀られるお大師様と御縁を結ぶ



大師堂前にて記念撮影

十月十一日、高尾山内八十八大師巡拝が行われ、総勢三十名の方々が山中を巡拝し、お大師様との御縁を結ばれました。

好天に恵まれた当日は険しい山道などの道中を進み、先達の僧侶と共に蛇滝周辺から葉王院までの各お大師様の御宝前で法楽を上げました。

山上に到着し、大本堂にて御護摩修行に参加された後、大師堂周辺の八十八大師御砂踏霊場を巡りました。精進料理の昼食後には、一号路を下りながら道中の各お大師様を巡拝して不動院に到着。その後は不動院にて、巡拝の成満を御本尊様に奉告する献灯式が、佐藤貫首導師のもと行われました。

# 高尾山内八十八大師巡拝

十月十一日(火)

## 高尾山の昆虫

### ミルンヤンマ

157



晩秋の溪流で見られ、夕暮れ時に活発に飛ぶ黒と黄色の明瞭な縞模様が入ったオニヤンマにしては小型で華奢な雰囲気、ヤンマ、それがミルンヤンマです。

ちよつと意味深でハイカラな感じの和名ですが、これは英国の地質学者ジョン・ミルンに献名したことに因みます。

幼少の頃、学校の図書館で見た昆虫図鑑に載っていたマルタンヤンマとミルンヤンマってどういう意味なのかと、虫好きな学友とあれこれ話をしたことを思い出しました。

最美のヤンマとされる派手なマルタンに比べると、本種はやや地味な印象があります。

同じく黄昏飛行をするコシボソヤンマと若干似ますが、コシボソはより大型で腹部第三節が異様に細いことで見間違えることはありません。

暗い環境を好む種だと思っていました。秋も深まると日中でも活動すると思われ、大変興味深く感じます。

そういえば、だいぶ前に高尾で出会ったトンボ少年は習性を熟知しているようで、小さな網が付いた短いサオで巧みにミルンを捕まえていて驚きました。

小型でやや細身のヤンマながら日本特産種で、味わいのある種だと感じます。

(文松島孝 撮影上村雅昭)

深夜の高尾山中を行く

# 第百二十回 信徒峰中修行会

十月八日(土)



佐藤貫首と記念撮影をする修行会参加の皆様

去る十月八日、「第百二十回 高尾山信徒峰中修行会」が行われました。本年は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、宿泊を伴わず、早朝から夕方まで山中を行く日帰り行程となりました。

雨の止んだ深夜に山麓の不動院を出立した先達と修行者の約二十名の二行は、暗闇の山道を登り山頂に到着、その後大本堂にて早朝の御護摩修行に参列されました。

朝食の後、修行者一行は有喜閣にて佐藤貫首による修験道について法話を聴講し、境内各所のお堂にて法楽を上げました。

その後有喜苑において、貫首導師のもと柴燈大護摩供が厳修され、修行者の皆様も共に祈りを捧げられました。



有喜苑にて行われた柴燈大護摩供



修験道について法話する貫首



高尾山中を練行する



深夜の山頂に立つ

# 高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

35

## 十六世秀憲3 紀伊徳川家祈禱所のこと



徳川宗直寄進の可能性を有する奥之院の不動明王像

享保二年(一七三六)の春、高尾山で居開帳が執行されている最中の三月二十八日、紀伊徳川家当主宗直が帰国の途次に身延山へ参詣するため、甲州道中を通行した。

### 秀憲と紀伊徳川家

高尾山は江戸中期以降、一時の中断をばさんで幕末まで紀州家の祈禱所を勤めていた。維新後は関係が途切れたことや、江戸後期の地誌類にも目立った記述がないせいか、このことは知られざる史実となっていた。一九八六年から翌年にかけておこなわれた法政大学による薬王院文書調査の結果、大量の関係文書が伝世することが判明し、特に八代藩主重倫時の密接な交流が明らかになった。

しかしながら、何時いかなる経緯で祈禱所となつたかについては、残念ながら確証を得ることができていない。その意味では、この享保二年の居開帳執行時に甲州道

中の通行があつたことは気になる出来事である。とは言い、この通行が紀州家による高尾山信仰とどのように結びつくのか何も明らかにできないのだが、後の史料上の記述からは山主秀憲のパーソナリティこそがこの関係に強い影響を及ぼしていたであろうことが理解できる。高尾山に対し最も深い帰依を示した重倫による直筆の書状は、隠居の身にあつた秀憲に宛てられており、その個人的な心情を吐露した文面は、よほどの深い信頼関係がなければ書き得ないような内容である。

秀憲が隠居した時点で重倫はまだ幼少なので、この帰依は家中の誰がしかの影響によると考えられる。

紀州家に係る最も年代の古い史料は宝暦五年(一七五五)と推定される二月付の佐野伊左衛門時春から到来した書状である。そこには、先年寄進のあつた戸帳・水引が

破損したため葵紋付にて新たに寄進を願ひ出たことに對し、承知したと書かれており、同家との関係がこの時点からさらにさかのぼり、なおかつ本尊の祭祀と密接に関わる什物の寄進という点では、何か特別な契機が必要と考えられる。すると、それには元文三年(一七三三)における最初の江戸居開帳が思い浮かぶ。

### 元文の戸帳・水引寄進

実は元文二年に葵紋付の戸帳・水引の寄進を受けたという別の書面が存在する。

#### 覚

葵御紋付 純子水引

竹姫君様より 御寄附

取次 浮月院

右御奉納なさせられし

うらう段

寺社御奉行

松平紀伊守様へ御届

申し上げ(中略)

元文二丁巳年五月

葵御紋付白幸菱 綾地

戸帳 模様牡丹

一位様より御寄附

### 御附取次

幾代 妙性尼

元文五庚申年十二月

(後略)

この文面は紀州家関係の書面と解釈もされているが、「竹姫君様」「二位様」とも紀州家の人物と特定できておらず、文面にもその旨の記載はない。宛所もなく、また、押印などリアルタイムの文書であることを示す痕跡がないことから、記載の真偽はともかく、何時作成されたものかは不明である。

しかしながら、元文二年というのは江戸居開帳の前年であり、寄進を受けるタイミングとしては必然性がある。また、そうだとすればその時点で寄進の願ひ出に一定の見込みのある関係が築けていなければならぬことになり、仮にこの寄進が紀州家からのものであつたとすれば、先の通行の時期は大きな意味を帯びてくる。もつとも、佐野の書状に記されている

こと以外は、推理に推理を重ねてのことである。

### 寛政二年の由緒書

紀州家に係るリアルタイムの文書がコンスタントに残り始めるのは明和八年(一七七二)以降であり、それ以前における交渉については、後世の記録類に頼らざるをえない。その最も早いものは甲州道中通行の享保二年からは五四年後、戸帳・水引寄進の宝暦五年からは三五年後の、寛政二年(一七九〇)の由緒書となる。これは翌年に江戸湯島居開帳をひかえ、寄進を受けた戸帳・水引の修復を願ひ出る文面と同時に作成されたものだが、宛所を欠き、実際に紀州家に提出されたものかは定かでない。

そこには、

一、紀州様御代々御祈禱仰せ付けなされ、わけて宗直御代たび、たび御祈禱仰せ付け、なされしうらう所、三ヶ年御祈禱あい勤

### めそうらうに付、修復料として金二百五十両下し置かれしうらう、その節の御用御係り佐野伊左衛門殿にてござしうらう事(中略)

一、宗直御代、不動尊一体御寄附あそばされしうらう、根来山興教大師の御作にて当時長日護摩供奉に安置つかまつりしうらう

と記されている。宗直から度々祈禱の依頼があり、堂宇の修復料二五〇両が下されたとする。そして、興教大師覺鑊の作という不動明王像が寄進され、長日護摩供奉として祭祀しているという。

何分、少なからぬ年数が経過した後の記述だけに、別の裏付けがほしいところである。佐野伊左衛門の名は先の文書に確認できるので、その時代に佐野を通して交渉のあつたことは事実である。不動明王像は、さらに時代の下つた幕末期の記事

によるが、紀州家寄進とされるものが旧護摩堂に安置されていたと言ひ、移設されて奥之院不動堂となつた今日においても脇侍をともなう木像が祭祀されている。

### 不動明王像の寄進

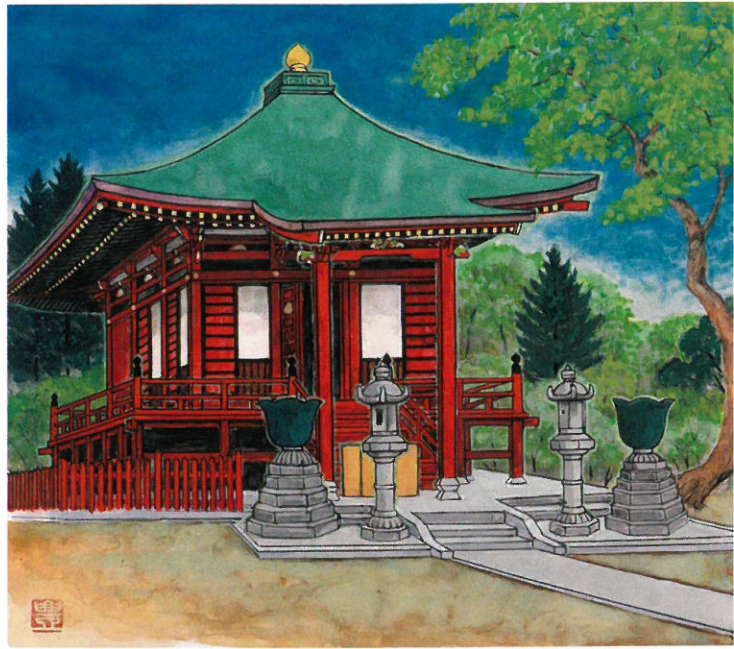
不動明王像の存在については、寛政二年の以前にも確認できる。それは不動明王像とその厨子の再興を依頼した際、重倫の側近である浅井庄左衛門がそれを拝礼したという記述である。願ひ出は紀州家から寄進されたもの故であろう。年次は不明ながら、重倫からの祈禱依頼が始まつた明和九年(一七七二)から、重倫隠居の安永四年(一七七五)までの時期だろう。由緒書よりは時期に近い。仮に宝暦頃の寄進と考えると二〇年程度の経過であり、未だ記憶が風化するには少し早い。

奥之院不動堂の不動明王像は鎌倉時代の作と判定されており、平安時

代の人物である覺鑊の作とは考えにくい。後源が中興の以前、高尾山荒廃期のものだけに、後世、山内に持ち込まれたものと考えてよい。確定的な証拠こそないものの、これらの傍証からすると紀州家寄進の像である可能性を有する。また、根来山ゆかりの仏像とされることは、紀州家による信仰の背景に、紀州領内にある同じ新義真言の密教寺院である根来寺の存在が見え隠れする。

註1 戸帳は仏像を安置する厨子の扉を開いた開口部を縁取るように覆う幕のこと。水引(帽額)も仏前に飾る幕の一種。

註2 旧稿で「竹姫君様」「二位様」に該当する人物を検討したが、年代など齟齬を来す点があり、この史料についてはなお検証の余地を残す。おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。



不動堂

高尾小物部 55

絵・橋本豊治

旧護摩堂移設以前、江戸後期の記録によると、奥之院周辺には飯繩本地堂、浅間社、大天狗小天狗社が存在していたようです。飯繩本地堂のその後は不明ですが、浅間社は富士浅間社として同地に残り、大小天狗社は飯繩権現堂脇に移設されました。

旧護摩堂移設以前

飯繩権現堂から急な階段を登ると、奥之院の不動堂にたどり着きます。このお堂は現在の大本堂の位置にかつてあった三堂の一つ、護摩堂を移築したものです。同時期に建立された大師堂や仁王門に比べて修築の手が入っておらず、江戸前期の様式を留めております。不動堂に安置されている不動尊像は矜羯羅、制吒迦の二童子を従えた立像で、高尾山内の不動尊像として最大であり、鎌倉時代の作といわれています。俊源大徳中興を遡る記録が残されていない時代の造立であり、来歴は定かではありません。しかし、紀州徳川家により奉納された不動尊像が旧護摩堂（現不動堂）に安置されていたという記録が残っており、確たる証拠はありませんが、紀州家ゆかりの不動尊像である可能性が指摘されております。

いろは

天狗の落とし文 22

ライバルあって

自分を磨く

ら 競争あって

成長す

他人よりも優れていると証明しようという欲求。これは人類が繁栄に至った根源的要因の一つであると考えます。自分一人しかない環境では現状に満足してしまい、自分を磨くことをせずに、一定以上の成長は望めないかもしれません。

しかし、誰かもう一人、仲間やライバルといえる存在がいる場合では、その限りではありません。もう一人がいるだけで、張り合いが出てくるし、競争を通じて自分の実力が磨かれることでしょう。

ライバルは、お互いの足を引っ張り合い、貶めるような存在、敵ではありません。あくまでお互いの良い面を引き出し合う、「仲間」のような存在なのです。

良いライバルや仲間を見つけて皆で切磋琢磨していけると良いですね。

桑都八王子の文化と魅力を体験 第9回 わくわくわくわくフェア

十月二十二日(土)

主催・八王子商工会議所

十月二十二日と二十三日、八王子商工会議所(榎崎博会頭)が主催する秋の恒例行事「わくわくフェア2022」が開催されました。二十二日は、未来へ紡ぐ伝統文化をテーマとして、日本遺産「霊気満山高尾山」の構成文化財である、佐藤貫首をはじめとした高尾山の山伏、八王子消防記念会の皆様、そして八王子芸妓組合の芸妓衆と共に西放射線ユーロードを練り歩く「桑都八王子パレード」が行われました。パレードの後には、周囲にビルが立ち並び市街地の横山町公園ステージにおいて、柴燈大護摩供を厳修し、道行く方々に見守られながら、市民安全など諸願成就を御祈念申し上げます。

また、八王子の歴史・文化の発信や伝承のため、演芸場や物販店を備えた新施設「桑都テラス」が十一月二十六日に開店を控えており、お披露目のため多くのイベントが催され、その一つとして八王子芸妓衆による見事な「桑都の舞」が披露されました。



多くの市民が見守る市街地で 柴燈大護摩供を厳修致しました



当山参与であられる 八王子商工会議所の榎崎会頭



八王子消防記念会の皆様による木遣りの先導で 西放射線ユーロードを練り歩いた



八王子芸妓衆による 「桑都の舞」

### はちおうじ若者会議主催 ウクライナ人留学生と登る高尾山



初めて訪れた高尾山を楽しみました

十月二十三日、秋の高尾山に、「はちおうじ若者会議」の皆様と八王子に留学中のウクライナ人留学生三名が訪れました。  
最近では若い世代がアイディアを出し合い、地元を盛り上げてゆけための、様々な若者会議が増えており、八王子でも本年七月に有志により設立されました。  
今回はウクライナ人留学生と文化交流のため御護摩修行に参列し、世界平和を祈願されました。

### 駒ヶ根分霊院地鎮祭厳修

九月三十日(金)

九月三十日、長野県駒ヶ根市にある、高尾山駒ヶ根分霊院において、年月を重ね損傷著しくなった社務所の増改築にあたり、地鎮祭を執り行いました。  
当日は延壽院住職・駒ヶ根分霊院責任役員・伊佐榮豊僧正御導師のもと、駒ヶ根分霊院の責任役員、惣代の皆様・施工会社の方などご出席頂き、工事の無事完了を一心に祈願されました。



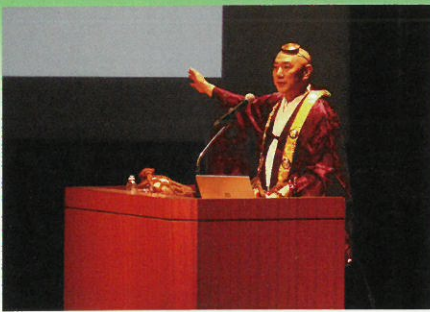
社務所の無事完成をお祈り致しました

### 中興俊源大徳忌法要厳修

十月四日(火)



### 第四十三回埼玉県佛教徒大会 当山貫首記念講演

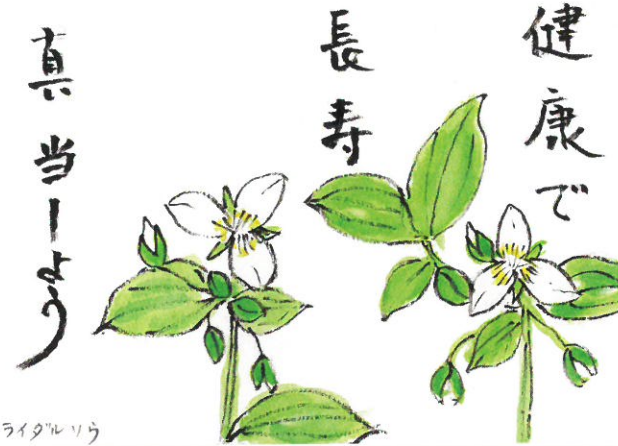


十月三日、さいたま市の埼玉会館大ホールにおいて第四十三回埼玉県佛教徒大会が「天下泰平 萬民豊粟」をテーマに開催され、当山の佐藤貫首が「霊気満山 高尾山」と題して、高尾山や修験道について記念講演致しました。

健康登山者投稿作品

### 季節の絵手紙「健康で長寿を」

八王子市 栃谷玲子 様



### 一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

十段 為せば成る 心ひとつにとりかかれ

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉にありますように、頭の中だけで考えるだけではなく、実際に行動を起こさなければ、良くも悪くも結果は出てきません。何事もやる気を持つことが大切です。

### 高尾山 季節散歩

暦の言葉 「七十二候」  
橘始黄  
「たちはなはじめてきばむ」  
十二月二日〜十二月六日頃  
橘は日本固有の柑橘類であり、常緑植物であることから古来より「永遠」を象徴するものとされてきました。蜜柑など同様冬に実をつけ、この頃に黄色くなります。  
『古事記』や『日本書紀』では不老不死の霊薬として橘が登場してきます。

今月の風物詩  
椎茸  
文字通り「椎」の倒木に良く発生した茸で、他にも柗や栗、櫛などの枯れ木にも、発生します。かつては秋の味覚の代表格でありましたが、人工栽培方法が確立されて、今では一年中手に入るようになりました。  
加工品の干し椎茸はまた、精進料理の出汁として珍重されてきました。

### 健康登山百冊成満者芳名板

完成披露法要

十月一日(土)



神変堂脇に設けられた健康登山百冊成満者芳名板をお加持する佐藤貫首

十月一日、神変堂脇に新たに設けられた「健康登山百冊成満者芳名板」の完成披露法要が、佐藤貫首導師のもと執り行われました。  
健康登山とは、登山者の皆様が楽しく健康に登山できるよう励みになれば、との思いから平成十一年から始められ、今では五万人の方が会員となっており、二十一回スタンプを押すページがあり、全ページがスタンプで一杯になることを満行といえます。百回満行、すなわち二千百回登山した人は今では二百五十人近くいらっしゃいます。  
今回芳名板を移設するに至ったのは、健脚祈願や腰痛平癒を求めて参拝者がお祈りする神変大菩薩様と更なるご縁を結んで頂く為です。  
今後も登山を通して楽しく健康維持していくための一助となるよう、願っております。

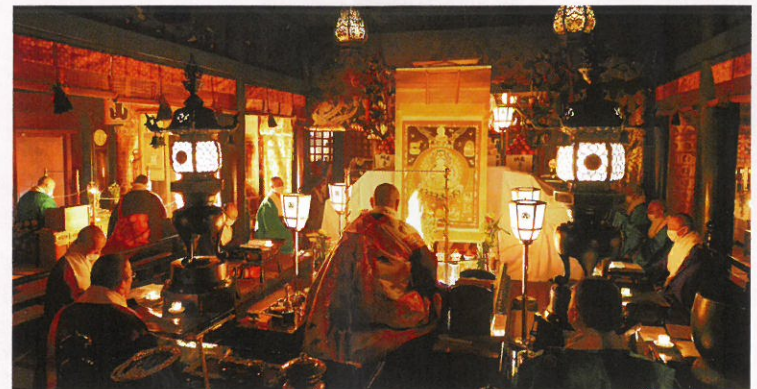




星まつり祈禱のおすすめ

星まつりとは、毎年順を追って巡りくる九星にお祈りして、災厄を除き福運を招くご祈禱です。

高尾山では、冬至に星まつり特別大護摩供を厳修して、御信徒各位の諸願成就を祈念しております。



又、当山の星まつりの御札は飯縄大権現、薬師如来、不動明王の三尊を始め、殊に九星、十二宮、二十八宿等の諸々の曜星を網羅した星曼陀羅を内符として納めたお札で、御利益は誠に深重であります。

多くの御信徒の皆様にお申込みを賜わり、広大無辺のご加護に浴せられますようお勧め致します。

※年齢は来年の数え年(来年の満年齢に二歳加える)ご祈禱料は一人様千円。特別祈禱料は二千円以上となります。申し込み締め切りは十二月八日、冬至の祈禱終了後、お札を郵送致します。祈禱申込希望の方はご連絡下さい。申込書や高尾山の寶曆、振込用紙一式をお送り致します。

Table with 9 columns for different star days (羅喉星, 土曜星, 水曜星, 金曜星, 日曜星, 火曜星, 計都星, 月曜星, 木曜星) and rows for various years from Heisei 9 to Taisho 99.

いけばなの心 33

華道教授 佐藤 宗明

十一月になると木々の紅葉もはじまり、本格的な秋、またその先の冬を感じます。今回は紅葉を使った生花正風体をご紹介します。

この作品は高いところに赤く染まった葉を使用しています。そして、中段、下段にかけて徐々に黄色、緑色の葉を取り合わせています。

池坊につたわる紅葉の生花は目の前に見える木々だけを表現している訳ではありません。上を見上げると遠くには紅葉で色づいた山々。そして、近くを見るとやっと色づき始めた里に根付く紅葉たち。そんな景色を想像して、一つの作品を表現しています。作品のすべてを紅葉で構成する場合も多いのですが、今回は作品を引き締めるために一番



花材…紅葉、白玉椿



ます。(いけばなは)少しの水と草木で広大な山川草木を表現する、という意味です。この作品で少しでも、雄大な紅葉の山を心に思い浮かべて頂く事ができれば幸いです。

高尾山報助成金志納者御芳名順不同・敬称略

- List of names and addresses of donors, organized by city/ward (e.g., 新座市, 京都市, 八王子市, etc.).





# 登山だより

## 十二月行事日程

一日〜七日

聖天秘供(聖天堂)

六日、十八日、三十日

弁天様御縁日

三日

月例写経会

(十三時山麓不動院)

六日、十二日

御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

八日

釈尊成道会(仏舍利塔)

十三日

山内大掃除(すす払い)

十八日

おみがぎ

十九日

納札供養柴燈大護摩供

(十三時祈禱殿広場)

二十一日〜二十二日

星まつり祈禱会

二十一日 午後三時開白

二十二日 午前六時結願

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十八日

奥之院開扉供養(十時奥之院)

三十一日

大晦日・二年参り

## ★お知らせ

十二月十三日は「山内大掃除」十八日は「おみがぎ」の為、午前中の御護摩修行は時間と場所を変更する場合がありますので、御了承下さい。

## 毎日の お護摩奉修時間

(11月1日〜4月14日まで)

午前6時00分

// 9時30分

// 11時00分

午後0時30分

// 2時00分

// 3時30分

ご講中・団体等御相談下さい。

## 新春特別開帳大護摩供

# 元旦御護摩札

# 申し込み御案内

令和五年元旦、午前零時より高尾山では、新春特別開帳大護摩修行が厳修されます。御信徒の皆様には、元旦に参拝されて、大本堂で執り行われるこの修行に参加されることを、お勧めしております。

また、御信徒様各位の都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に、元旦御護摩札を郵送でのお取り扱いをいたしております。

お申込みを御希望される方は元旦御護摩係まで御連絡頂きますと、申込用紙をお送りいたします。同封されている返信用封筒に、申込用紙を同封頂き、十二月十日までに必着するようにご投函頂きますよう、お願い申し上げます。

尚、元旦御護摩札の発送は、一月三日以降を予定しております。

## 申し込み締め切り

十二月十日必着

## お問い合わせ先

電話 〇四二六六一・二二一五

FAX 〇四二六六四・二九九

高尾山薬王院・元旦御護摩係まで

## ◆お知らせ

高尾山薬王院では、新型コロナウイルスの感染予防を図る為、境内各所への消毒液設置・換気・職員のマスク着用などの対策を実施しております。

御来山の皆さまにおかれましても、手洗いや咳エチケット等の予防対策情報に十分留意されますようお願い申し上げます。



高尾山薬王院ホームページ  
<https://www.takaosan.or.jp>  
下記のQRコードから高尾山薬王院のホームページにアクセスできます



発行所  
東京都八王子市高尾町2177  
大本山  
高尾山薬王院  
郵便番号 193-8686  
電話(042)-661-1115(代)  
FAX(042)-664-1199  
発行人 犬山秀康  
編集人 菅井倫浩  
印刷 ヒラツカ印刷社  
毎月1回1日発行  
1部50円